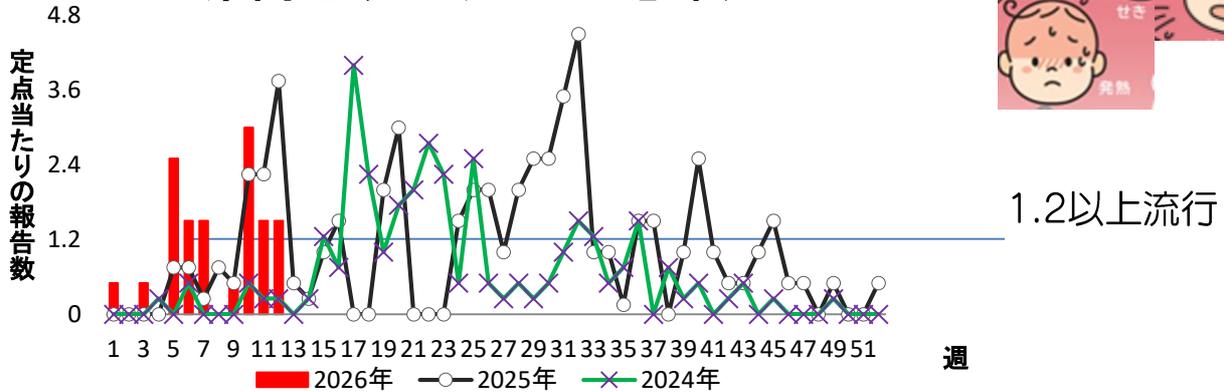


RSウイルス感染症は乳幼児が感染すると 重症化することがあります

県南地域RSウイルス感染症



- 症状 **発熱、鼻水、咳**などの症状が数日続き、多くは軽症で回復しますが、重症化した場合は、**気管支炎や肺炎**などを起こします。
- 感染経路 RSウイルスに感染した人の咳やくしゃみなどによる**飛沫感染**
ウイルスの付着した手指や物などを介した**接触感染**
- 治療方法 基本的には、症状に応じた治療（対症療法）を行います。
重症化した場合には、酸素投与、点滴、呼吸管理などを行います。
- 予防 **基本的な感染対策を生活習慣にしましょう。**
水と石鹸での手洗い 手やおもちゃなどのアルコール消毒
症状があるときは可能な範囲でマスク着用

受診に迷った場合や夜間・休日の場合は、「こどもの救急」などのサイトを参照したり、#8000（こども医療電話相談）にご相談ください。



こどもの救急

RSウイルス感染症に対する 母子免疫ワクチンの定期接種を実施します

厚労省 RSウイルスワクチン

検索



令和8年度から開始されます。

- 定期接種の対象 接種時点で、**妊娠28週0日から36週6日まで**の妊婦の方過去の妊娠時にRSウイルスワクチン（母子免疫ワクチン）を接種したことがある方も対象になります。
- 使用するワクチン **母子免疫ワクチン**を使用します。
妊婦の方に接種すると、母体内で作られた抗体が胎盤を通じて胎児に移行し、生まれた乳児が出生児からRSウイルスに対する予防効果を得ることができます。
- 接種スケジュール 妊娠28週0日から36週6日までの間に**1回接種**

